

令和5年度山梨大学入学式 式辞

本日、山梨大学に入学された 学部生 877名、特別専攻科 8名、教職大学院 29名、修士課程 259名、博士課程 41名の皆さん、入学、誠におめでとうございます。本学の教職員及び在学生を代表いたしまして、皆さんの入学を心より歓迎致します。同時に、これまでの皆さんのご努力に敬意を表しますとともに、皆さんを支えてこられたご家族及び関係者の皆様にお祝い申し上げます。また本日は、大変お忙しい中、山梨県知事 長崎幸太郎様をはじめ、多くのご来賓の方々にご臨席賜り心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症対策が緩和され、4年振りに新入生、保護者の皆様一同に集まったの入学式を開催することができ、大変うれしく思っております。

これから皆さんが暮らす山梨は、南に霊峰富士山、西に南アルプス、北に八ヶ岳、東に奥秩父など、いずれも標高二千メートルを超す山々に囲まれ、豊かな自然に恵まれた風光明媚な地域であり、最高の環境の中で学修・研究に打ち込んでいただけることと思います。

現在の山梨大学は、2002年（平成14年）に旧山梨大学と山梨医科大学が国立大学では全国で初めて統合し、誕生した大学であります。統合前の両大学の歴史に少し触れますと、旧山梨大学のルーツは約230年前の1795年（寛政7年）に、徳川幕府昌平黌の分校として設立された「徽典館」まで遡ることができ、現在の教育学部の原点となっています。工学部は、大正時代に設置された山梨高等工業学校を母体とし、来年100周年を迎えます。医学部は、1978年に現在の中央市に新設医科大学として開設された山梨医科大学を母体とし、45年の歴史を有しています。生命環境学部は、学部としては一番新しく、大学統合後の2012年に農学系学部として設置されました。大学院は、大学統合を機に学部を横断した体制を整備し、現在は医工農学総合教育部として活動しています。教職大学院は2010年、特別専攻科は1967年にそれぞれ設置されました。こうして、現在は4学部、2つの大学院、1専攻科を有し、4,700人余の学生と約2,500人の教職員が所属しています。「地域の中核、世界の人材」をキャッチフレーズとして、決して規模は大きくないながらも、20年前の大学統合の際に掲げた『諸学融合』という精神のもと、機動性を活かし全学一体で多様な教育・研究・地域貢献に取り組む総合大学です。

これから、本学の取組みの一例を紹介します。教育面では、2019年に山梨県にご協力いただき、山梨県立大学と連携し、一般社団法人「大学アライアンスやまなし」を設立して、我が国初の大学等連携推進法人の認定を受けました。この取組みは、学生の選択肢を広げる仕組みであり、「連携開設科目」を設定し、県立大学の授業科目を本学の学生も履修することができます。この国立・公立 大学間の連携は全国から注目されており、文部科学省からも高く評価されています。

現在、力を入れている教育面の取組みとしては、「何を学び、身に付けることができるのか」を明らかにしたうえで、皆さんが主体的に学ぶことができるよう、学修者本位の教育を目指し改革を進めています。さらに、デジタル技術を活用したデータ分析などにより、入学前から卒業後までの一貫した相談・支援体制を整備し、学修面や生活・進路面での不安・悩みを解消できるようサポートしていくこととしています。

研究面での特色ある取組みとしては、水素エネルギー時代を牽引するクリーンエネルギーや燃料電池ナノ材料、山梨の文化・風土・地理的要因から育まれたブドウ・ワイン科学、流域環境科学、人工水晶、世界トップレベルの発酵工学、先端脳科学などの活動を展開しております。また、医学部附属病院においても、地域医療に力を入れつつ、最先端の臨床研究で成果を挙げています。

このように、高度かつ独創的な研究を推進するとともに、その成果を教育にも展開し、「真に地域の活性化を担い、世界で活躍できるグローバル人材の育成」を目指しています。

さて、今日の世界に目を向けると、気候変動や自然災害、紛争を伴う対立など、解決の非常に困難な問題が増加しています。また、我が国でも少子化、デジタル化、コロナ感染症など課題が山積しています。本学は、これら国内外の諸課題に真摯に向き合い、学術研究、教育などを通じて、「課題の解決に向けて積極的に行動することのできる人材」を育成しています。学生の皆さんは、先ほど述べた現代社会の課題解決に向け、自らがどのような目標に向かって進むべきかを考え、その目標に向かって主体的に行動する力を是非とも身に付けてください。

私は、本日入学された皆さんに「無限の可能性」と「至誠惻怛」という2つの言葉をお贈りします。皆さんは「無限の可能性」を持っています。そして、その可能性は皆さんが様々なことに、自ら挑戦してこそ発揮されるものです。皆さんは、多くのことに興味関心を持ち、果敢にトライする気持ちを持ち続けてください。失敗したからダメなのではなく、なぜうまくいかなかったのかを分析し、その失敗を次のステップに活かすよう思考し、工夫していく、そんな生き方をこの山梨大学で、是非身に付けてください。考える力、判断する力、わかりやすく伝える力、そして学びに向かう力を高め、かけがえのないこの大学時代を「無限の可能性」を大切にしながら成長を続けてください。

2つ目に、2015年にノーベル医学・生理学賞を受賞され、本学の特別荣誉博士でもある大村智先生に教えていただいた『至誠惻怛』という言葉をご贈ります。大村博士は、本学教育学部の卒業生で、私は何度かお会いし、先生の間味豊かな、やさしいお人柄に触れる機会を得ています。『至誠惻怛』とは、「誠意をもって人に尽くし、人の心を慮り、人の痛みを知ることによって、世の中を良くすることができる。そしてそのことが自分自身の生きざまとなる。」という意味です。本来、「人と関わる」ということは、「仲良くする」「いい関係になる」ということではなく、「自分は苦しくても、その人には幸せになってもらいたい」「自分は辛くても、その人には素敵な人生を送ってもらいたい」ということです。私は、本日入学された皆さんが周りの人々を自分自身の心の中に住まわせて、そっと包み込む、そんな「生き方」をしてほしいと強く願っています。

この3年間、新型コロナウイルス感染症により、行動制限やマスク生活を余儀なくされる中、コミュニケーションをとる機会が減り、友人や先輩・後輩と思うように交流できなかった時期が長くあったことでしょう。このような、つらい時期を乗り越えて、本学に入学された皆さんには心から敬意を表します。山梨大学は、学生の皆さんがより居心地よく学び、充実した学生生活を送ることのできる大学を目指して、全力を尽くしてまいります。

ご家族の皆様、学長として私が責任をもって入学生の皆さんを導いてまいりますので、その成長を温

かく見守ってくださるとともに、本学に対するご支援をお願い申し上げます。

あわせて、関係者の皆様におかれましては、本学に対する忌憚のないご意見などをお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

終わりに、入学生の皆様とご家族の皆様に、あらためて心からお祝いを申し上げ、私からの式辞といたします。

ご入学、誠におめでとうございます。

令和 5年 4月 6日
山梨大学 学長 中村 和彦